

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 79 号

2011年 12月



第 119 回自然観察会 口太山自然林観察会に参加して 五十嵐 稔

11月23日口太山自然林観察会に参加しました。

ちょっと肌寒さを感じる天気でしたが、まずまずの日和。立子山自然の家で午前8時に集合、12名が2台の車に分乗し、川俣町と東和町の境にある口太山登山口に向かいました。

今回の口太山、典型的な阿武隈山地の里山でした。私ごとですが、昔々大昔、若い時には福島市の西側の方の2千メートル級の山々やいわゆる百名山のようなところにはよく登ってはいました。ただ寄る年波のせいかな春先や晩秋のころポコポコ登れるような里山にあこがれるようになってきました。この会に入ったのも家の家内に引張られてというところがあります。今回は家内が所用で参加できませんでしたが、今回はぜひ行かねばと私一人で参加した次第です。

ただ残念ながらこの地域の山々は原発事故の影響が最も出ている地域に近接しており、佐藤守さんの事前の調査でもかなり放射線量が高くなっていると聞きました。山頂から二本松市側（東和町側）が特に高くなっているとか。残念ながら厳しい現実です。

南相馬市から参加した別所さんも合流し、ほぼ予定どおり、9時前に川俣町大綱木登山口から登り始めました。緩やかな勾配で、落葉樹林の中はほぼ葉は落ちており、見通しは良くなっています。日差しも柔らかく、まさに思い描いていた晩秋の里山といった感じです。守さんの解説によればこの付近はクリーミズナラを中心とした里山の典型的なタイプの森林ということです。（ちなみに私は植物のことはさっぱりわかりません。何回聞いても右から左に流れてしまうようで、さっぱり知識の蓄積がありません。せつかくの観察会ですが申し訳ありません）登山中には右手のほうに猿滑の滝も見ることができました。

この辺りからたくさんのカエデが観察できました。私にとっては、カエデ、モミジという分類しかありませんでしたが、エンコウカエデとかウリハダカエデとかコハウチハカエデとかいろいろ種類のあることはよくわかりました。また葉の形は木の年齢によっても変化するというお話を聞き感心した次第です。

登るにつれ、見晴らしが良くなり、遠く福島盆地やその向こ



うに吾妻、安達太良山を望めるようになってきました。何日か前に白くなった吾妻、安達太良が一層奇麗に望めます。岩場の「猿の首取」で一休み後、まず先登隊が頂上へ。落ち葉が敷き詰められている登山道を気持ちよく登っていくと15分ほどで頂上へ。視界の開けている気持ちのよい頂上です。結局全員山頂を経由して石尊神社コースを下山することに。このコース、頂上直下に石尊神社という祠がありますが、ともかく急傾斜。転げ落ちそうになりながら下りました。

ほぼ下りきってでた沢の付近が守さんによればコース中、もっとも高い放射線量を示すところだそうです。窪地で、付近に杉があるところ(杉の真下はかえって低いとのこと)が高い線量を示す典型的な地形だそうです。この沢の付近では3.5 μ Sv/h 前後測定されました。登山口付近のキャンプ場に再びもどり、無事登山は終了しました。

日常生活の場よりは少々高い放射線量を浴びながらの登山となりましたが、気持ちのよい晩秋の里山を満喫できました。できれば新緑の頃、再び訪れてみたいと思いました。

第118回自然観察会 龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地観察会に参加して 渡邊 アヤ子



『高山の原生林を守る会』第118回観察会が、31名の参加者により10月2日(日)山形県龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地で開催されました。

私はこの度新会員となり、今回初めて参加させていただきました。

龍ヶ岳は標高994メートル、鳩峰峠を登山口とし、山形、宮城、福島にまたがる展望の素晴らしい山でした。この日は好天に恵まれ、紅葉にはまだ早いですが、さわやかな秋風が草原に流れる、絶好の観察会となりました。

登山口は、鳩峰峠の牧草地から始まります。歩き始めるとさっそく、ゲンノショウコが小さな花をつけ、今を盛りとノコンギクが群生して咲き誇っていました。草原と笹の中の道を15分も登ると、トモエシオガマ、ヤマハハコが足元に、顔を上げるとテンニンソウ、前の方で何やら佐藤代表を囲んで説明会、近づいてみるとハナヒリノキということでした。鼻に近づけるとヒリヒリするのでこの名がついたとか。実はよく見るとひとつひとつがリンゴの形をしていてとても可愛い。

また、両側に木の実がいろいろと目に入ってきました。アキグミ、コマユミ、ヤマブドウとノブドウ(同じだと思っていました)、ガマズミ、オオカメノキ、ナナカマド、ツルウメモドキなど、地味だった夏と違い、自分を主張するかのようにその彩りを競っていました。

また、カマツカ(別名ウシゴロシ)、サワフタギ、イヌガヤ、ヌスビトハギ、タチツボスマレ、サラサドウダン、オヤマボクチ(別名ゴンゴツパ・こちらの方が覚えやすい)、クロモジの木、タニウツギやイヌガヤの実など、どの木もどの実も行く秋の束の間の存在をせいいっぱい見せてくれていました。次の世代に命を残しているのですね。(実はほとんど名前を知らなくて、みなさんに教えていただきました。)

私は以前から山歩きが好きで、可憐な高山植物に癒され、花を愛で、花に出会うのが大きな楽しみのひとつでした。ところが、佐藤代表や小幡さんと歩いて、高山にはない多くの山野草や雑草(?)の名を知ることができました。当然ながら、どんな野草にも雑草にも名前があり、花が咲き、実をつけ、自分の居場所の中で懸命に生きている。今まで見向きもなかった雑草さえ愛おしく思えました。

昼食はブナのマザーツリーの下で芋煮会。この付近は7年かけて植林したという広葉樹が順調に生育していました。おいしい芋煮をいただきながら、なぜこんなところまで伐採して牧草地を作らなければならなかったのか、

人間の身勝手さに憤りを覚えるのを禁じませんでした。

『高山の原生林を守る会』は発足以来、精力的に自然保護活動を4半世紀にわたり継続されてきたとのこと。その関わってきた全ての方に深い敬意の念をいだくものであります。そして、その末端に身をおくことができることに感謝しております。

2週間後、観察会で見た実生がどのように変化したかを見たくて龍ヶ岳に再度足を運びました。コマユミがはじけたようにたくさんの実をつけ、アキグミもナナカマドもまだ残っていました。一段と秋が深まり、冬を越す準備が着々と進んでいるようです。来年、花が咲くころはどのように変わっているのか、また来てみたいと思いました。

鳩峰の若木 佐野 一子

牧草地を 国有林に戻すとは かの広き山に木を植うるのみと
山原に うす紫のノコンギク 植えし若木の育つは確か
かの昔 牛たちが草食べる山に 若木は根つき葉を輝かす
落葉樹林の 若木は直ぐと伸びており 紅葉はじむ秋に射る今
年を経て 若木直ぐ立つ 「ありがとう」のリュックの美酒を静かにそそぐ

鹿狼山から 19 ～被災地の悲しみ～

小幡 仁子

9月末の日曜日、姉と一緒に久しぶりに鹿狼山に登りました。今年はジャコウソウの花に巡り会うことができました。鹿狼山では登山道脇に1カ所だけこの花が咲きます。時期を逃すと会うことができません。ジャコウとは言いますが側に寄っても良い香りがした試しはありません。でも、薄暗く湿った場所が好きなようで、杉林を控えた登山道の片隅に美しいピンク色の花を咲かせますから、今年もよく咲いたなあと誉めてやりたくなります。



ジャコウソウ

頂上には数人の登山者がいました。中には海に向かって手を合わせている方もいました。お天気が良かったので、海も青々としており、遠くまで見渡すことができました。私と姉も手を合わせました。新地町では津波によ

って亡くなられた方は100人を超えました。防波堤は壊れたままだし、沿岸部に入り込んだ海水は引けないまま大きな浦のようになっています。今度あのような大津波がきたら、6号国道を軽く越え町の半分はダメになってしまうと、町の誰しもが心の片隅で不安をもちながら生活しています。

鹿狼山を降りる途中で私は同級生のTちゃんとA君に会いました。Tちゃんはこの津波で三男坊を亡くしました。私の次男とは同級生だったのです。保育園から小学校・中学校までずっと一緒でした。Tちゃんの息子も我が家の息子も、食が細くて痩せチビだったので、身長順に並ぶときは一番前を争っていたのでした。子供たちが小学生の時は「このままずっと痩せチビだったらどうしよう」と話したものでした。Tちゃんとは5月のお葬式で会って以来でした。仕事は再開したと聞いていましたが、どんな状態なのかと気になっていました。TちゃんはA君に伴われてゆっくり登ってきましたが、はあはあと息があがっていました。

「Tちゃん、久しぶりだね」と私は声をかけました

「ああ、久しぶり。私、血圧高くてね。3キロ位体重が増えて、運動不足だと思ってね、A君に頼んで鹿狼山に登ることにしたの」

「お父さん(夫)がね、全然家から出ないの。前は買い物でも何でも外に出ていたのに、薬でも飲ませないとダメかなって思って」

「無理もないべ」とA君がぼつりと言いました。

「M(Tちゃんの長男)がね、あんな消防の大変な仕事をしてね。もう、前の仕事の方が良かったのにね」Tちゃんは次々と話しました。

「M君は消防の仕事の方がやり甲斐あるんでしょう



「浦となった新地町沿岸部」

よ」私は言いました。

M君は故郷新地町にお嫁さんを連れてUターンし、消防士として働きだしたところでした。そこにこの大震災と津波は起きました。M君は弟の捜索を懸命にすることになったのです。

「これも運命だったのかしら」Tちゃんはそう言いました。

話せば涙が出そうで、うなずくしかありませんでした。今度是一緒に山に登ろう、11月頃は鹿狼山の紅葉もきれいだからと言って私たちは別れました。TちゃんとA君はまたゆっくり登っていきました。

息子を亡くした悲しみはそう癒えるものではないけれど、こんな風に鹿狼山を友達と歩き、春には花や新緑、秋には紅葉の中に身を置いてほしいものだと思います。私たちは生まれたときから鹿狼山が側にあり、朝な夕なにその姿を眺めて暮らしてきました。お天道様は釣師浜から出てきて鹿狼山に沈むものでした。私はTちゃんが鹿狼山に登ろうと思いついたのが分かる気がしました。



鹿狼山の紅葉・11月

それにしても・・・今回の津波はひどすぎました。Tちゃんの息子、いとこの息子、教え子も亡くなりました。同じ母親の立場として胸が張り裂けそうでした。今年3月4日と鬱々としていたときに、妻を亡くしたというある歌人が言っていた言葉が心にしみました。彼は「私は、人の死というは、その人の存在を忘れてしまったときにくるものと思います」と言っていたのです。ああ、そうなのか、と私は思いました。そして、忘れないでいよう、

19歳で逝ってしまったあの子達の笑顔を、いつまでも大切に胸にしまっていこうと思いました。

今年8月に、私は鹿狼山で初めてイヌブナの実を見つけたので、友達にメールで写真を送ったり、会報に書いたりしました。この日、まだ実はあるかと思いついて見上げましたが、一つもありませんでした。日当たりが悪いせいなのか、それとも見えない上の方には付いているのか。あるいは鳥が啄むのか。自然の中で花を咲かせ、結実し、種子となって地上に落ち、次世代に残るのは気が遠くなるほど極々わずかだと実感しました。

それでも、また来年の春になれば芽吹き、葉を繁らせ、実を付け、紅葉し葉を落とします。イヌブナの種子もいつか実生となり、若木へと成長する日が来るかもしれません(2011年12月18日)。

福島県の長期総合計画委員会でのこと

佐野 一子

今から10年も前のお話をします。

当時私は県の長期総合計画委員に任命を受けていました。担当は環境問題の方です。終盤に近い委員会の時、私は質問しました。

「原子力発電の方はどう考えればいいのでしょうか」

県の方ではこれを読むようにとぶ厚い冊子を出していました。何回、繰り返して読んでも県の発行物は原子力発電のことは載っていません。浜通りにある発電所は東京電力でやっているわけで福島県には関係が無いものだったらしい。

「自然を利用したもので電力をおこす方法もあるはずですよ」

私はこう言って席に座りました。そうしたらです。会議が終わって帰ろうとしていた私は「別室で話しがあります」と言われ、みんなと外に出ることはできませんでした。あれどうしたんだろう、私だけがまだ帰れないなんて・・・。

そして三人の作業服を着た県庁職員だと思うけど三人対一人の形で机に相對しました。何と言われるかと思っていますと

『原子力発電は絶対、安心です』三人が声をそろえて言うのです。

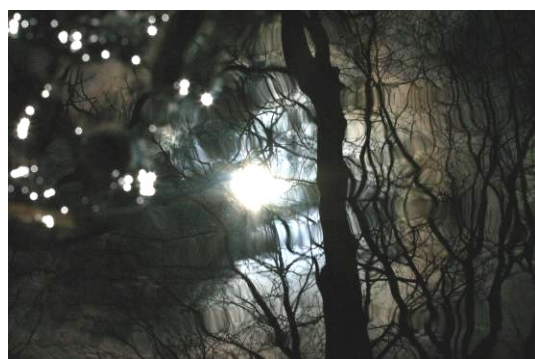
あとは何も言いません。私は余計なことは言うまい！と思っていましたのでハイと言っただけでした。

23年3月11日午後の大震災。浜通りの原子力発電所の爆発がおきて・・・。

4月になってから、あんなこと言われたっけ。その時の場面がいろいろ思い出されてきたのです。

「そういえば県庁の会議の時、こんなことありました」と夫に言ったら「お前もスミにおけないこと言うな」と。

たった『ひとこと』を言うために三人もそろって来たりして。絶対安全なんてあるはずないじゃない。私は原子力



発電に関する複雑な思いを改めて感じたわけでした。

自然とお話しながら人間らしい生き方をするためにも“脱原発”しかありません。絶対にそう確信します。

(これを書いた次の朝のニュースで佐藤知事が浜通りの全炉を廃炉にする旨 11月30日午後15時に発表するという知らせを聞いた。でもきれいな福島にもどるには20年30年かかるでしょう。)

高山の原生林を守る会 2011年定期総会報告

2011年11月23日(水) 午後13:00~15:30

福島市立子山自然の家

1. 2011年活動報告

月 日	内 容	参加人数
12月10日	NPO 法人土湯観光まちづくり協議会のイロハモミジ植林に関する福島森林管理署へ申し入れ	2
1月30日	第114回観察会	11
2月9日	西吾妻山城登山道保全打合せ	2
2月26日	NF 米沢 講演会&弥兵衛平湿地植生回復事業報告会	1
4月17日	山岳放射能汚染調査	9
4月30日	山岳放射能汚染調査	4
5月3日	山岳放射能汚染調査	1
5月5日	山岳放射能汚染調査	2
5月15日	第116回観察会	23
6月19日	西吾妻山城登山道誘導ロープ補修ボランティア	12
7月10日	第117回観察会	16
8月28日	弥兵衛平「ネーチャーフロント米沢」植生復元事業採種作業参加	1
9月10日	山岳放射能汚染調査(学習院大学・NHK 霊山放射線量調査協力)	2
10月2日	第118回観察会	31
10月8日	山形県自然保護団体協議会一般公開講演・シンポジウム	4
11月3日	西吾妻山城登山道誘導ロープ取下げボランティア	5

2. 2011年高山の原生林を守る会会計報告書(11月20日現在)

収入の部				支出の部			
科目	予算額	決算額	摘要	科目	予算額	決算額	摘要
前期繰越金	135,626	135,626		会議費	10,000	1,500	総会会場費
会費	50,000	41,000	500円×82名	郵送費	30,000	23,420	会報(No75~No78)
観察会参加費	30,000	24,600	300円×82名	観察会経費	10,000	3,017	芋煮会材料費
書籍販売	0	0		交通費	20,000	10,000	ガソリン代・ゴンドラ代
カンパ	0	28,206		保険代	35,000	29,900	
諸謝金	0	0		渉外費	20,000	0	
その他	0	15,000	登山教室保険代	雑費	30,000	1,234	資料コピー代
				予備費	60,626	0	
合計	215,626	244,432		合計	215,626	69,071	

平成23年度決算額
175,361円(次年度繰越金)

3. 2012年活動計画

(1) 自然観察会:最終頁を参照してください。

(2) 山形と共同の西吾妻の登山道保全ボランティアについて

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6/16	(土)	天狗岩~西大巔	誘導ロープ設置	NF 米沢との共同開催
10/20	(土)	天狗岩~西大巔	誘導ロープ取下	NF 米沢との共同開催

(3) 阿武隈山地登山道の放射線量調査について

花塚山、野手上山等の阿武隈山系の低山の登山道は公的機関による放射線量の測定が期待できない現状にあるため、これら山域の放射線量を調査し、会報やHPにより公表し、登山者への情報を提供する。

(4) 福島県吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する検討会の設置について

東日本大震災および原発事故により環境省裏磐梯自然保護官事務所の対応が休止状態にあるため、適宜進行状況を確認することも含め働きかけを継続していきたい。

東北ブナ紀行 (44) 「大震災が教えてくれたもの III」

～事故後20年の自然誌～

奥田 博

佐藤守さんが「放射能汚染を抱えて福島自然保護は何から手をつければいいのか、今のところこれとは言う自然保護の専門家や活動家からの意見は聞いたことがないです」というメールが届いた。福島原発事故の25年前に起きたチェルノブイリ原発事故。その後のチェルノブイリを自然の推移を切口にした『チェルノブイリの森』【Wormwood forest a natural history of Chernobyl(訳中尾ゆかり)2005 初版、日本語 2007 初版】を読んだ。サブタイトルが「事故後20年の自然誌」とあるように、原発により自然はどう影響を受けたかという375ページに及ぶレポートだ。

著者のメアリー・マイシオはウクライナ系アメリカ人。ロシア語が堪能な彼女は、1986年4月26日に起こったチェルノブイリ原発事故を15年経った2001年から取材し2004年に書き上げた事故後約20年の報告である。タイトルの通り、高線量の被ばくをした自然の20年後を中心に調査・報告している。

結論からいえば、高線量地帯に人は避難していなくなり且つ立入禁止になって20年を経過して、大自然は豊かな森となり、動物達が安心して生息する場所になっていたのだ。動物にとって最も有害なのは「人間の存在」そのものだったのだ。動物、鳥、昆虫、魚、植物などが生き生きと育ち、楽園を形成し、中には貴重種なども増えてきている。20年を経過しても今なお高線量の森であり、渡り鳥はアフリカやヨーロッパに放射線を運び拡散に寄与している。375ページの内容を1ページに要約する能力はないので、私から借りてでも読んで欲しい一冊だ。

高線量の元では、植物は色々な変異を起こすが、それは樹種によって、その影響・数値が異なる。年間10mSv以下を低線量、10～50mSvを中線量、それ以上を高線量とすれば、変異が見られるのは高線量地帯の森である。そんな中での動物の変異は、奇形で生まれた子は、生きて行けなく淘汰される。結果として、中～低線量環境下でスクスクと生きているのが実情とも読める。

人間に当てはめれば、高線量での影響は明らかだが、低線量による影響はまったく分かっていない。分かっていないから「問題ない」という科学者と、「分からないなら問題あり」と考える科学者。裁判になれば証拠不十分で「低線量では問題あり」が有利であると思うのだが。

12月にチェルノブイリ視察から戻った清水修二(福島大学副学長)さんの講演会を聞いた。チェルノブイリと福島の違いを切口に多くの事例を聞いた。放射能汚染下の福島における自然保護という意味では、ロシア・ベラルーシとは大きくかけ離れているのだ。広大な平原の広がるベラルーシの土地と、山の迫った日本の土地。除染も投資対効果でやらないベラルーシ。強制的に土地や家屋を放棄できる国と、地方自治と個人資産の認められた国では事情は大きく異なる。この国では、放射能に汚染された場所の自然保護に思いを馳せているのは佐藤守さん位だろう。『チェルノブイリの森』に以下のような件がある。

アフリカの越冬地から帰ってきたばかりのコウノトリが、赤い長い脚をリボンのようにたなびかせて、畑の上をすべるように飛んでいる。ディチアッキーという村にゾーンの南の検問所があり、そこからほんの数キロ離れたところでコウノトリの二十羽の群れが、鍬きこんだ畑で餌をついばんでいた。一か所でこんなにたくさんコウノトリを見るのは初めてだった。

12月のある日、田んぼで白鳥が数羽、稲株をついばんでいた。一昨年まで餌付けをしていたが、鳥インフルエンザを運んでくるという理由で、餌付けを止められた。人間の一方的な理由で、白鳥は自然な姿で餌をついばむ。この稲株はセシウムに汚染されていることだろう。やがて多数の白鳥は、遠くにセシウムを運び地球規模で放射能は拡散していく。人間の仕出かした愚かな行為と、犯した罪の大きさを見る光景だった。



マルバマンサク (*Hamamelis japonica* var. *obtusata* マンサク科マンサク属)

コナラ林からミズナラ林の沢沿いなどやや湿った平地に植生する落葉小高木。関東以西に分布しているマンサクの変種で多雪地帯に植生する。

葉は互生、有柄で葉形は左右不対象に崩れたひし形。葉身の上半分が丸みを帯びることが名の由来である。変種小名の *obtusata* は鈍頭を意味し、葉の先端の角度が緩やかなことを意味する。葉縁は葉の下半分は全縁であるが上半分は緩やかな波状となる。葉脈は葉柄から先端に走る主脈から両側に5、6対の側脈が葉の下半分の葉縁と並行に斜上する。

花は腋性、短枝に複数の花軸を付け、その先に2~4個の純正花芽を着生する。花は両性花。花の構造は4数性で、がく片、花弁、雄しべともに4個である。がくは赤紫色で反転する。花弁は黄色でリボン状に細長く、縮れる。がく片と花弁の色どりが華やかな雰囲気を醸し出す。雄しべの間には短い仮雄しべ(花粉を作らなくなった雄しべ)が残存する。雌しべは柱頭が2分する。アブラチャンと並ぶ迎春花で、早春に他の樹木に先駆けて花を咲かせる。2月下旬頃には高山登山口にいたる雪深い男沼林道周辺でもマンサクの黄色い花を観察することがある。開花期間は長く、葉の展開は花が咲き終わってからである。



マンサクは花芽の分化が難しいのか樹冠全体に花を咲かせる樹は少ない。2011年3月24日、私は防護服に身を固めて川俣町、飯館村、南相馬市の放射線量のモニタリング調査に従事した。何故、原子力関係の職場でもない私の職場に出動要請がされたのか、その理由も、命令を下した責任者も不明のまま。参集したメンバーは私の職場以外はすべて原子力関係を担当する県や JAEA 等の職員であった。放り込まれた状況の不合理性と義務感が混とんとした緊張感の中で慣れない測定を繰り返した。石ポロ坂トンネルで測定を終え、ふと山際を見上げるとアカマツ林の縁に黄色い花を全面に咲かせたマンサクがぽつんと1樹。思わず心が和んだ。

クロミノウグイスカグラ (*Lonicera caerulea* var. *emphylocalyx* スイカズラ科スイカズラ属)

山岳の岩稜帯や湿原周辺の低木林の風当たりの強い林縁に植生する落葉灌木。株立ちする叢状の樹形はマント植生の特性を備えているが、植生域は限定的である。ケヨノミの変種とされる。ケヨノミとは葉形や新梢の毛じの有無で区別されるが、変異は連続的のようである。

葉は対生。葉形は広楕円形から倒卵形で葉縁は鋸歯がなく滑らか。短い葉柄がある。葉の両面に毛じがある

花は腋性で合弁花。花冠表面の毛は無いか少ない。新梢の第1~3節の葉腋に対生し、下節から順に開花する。花は黄白色で短い花柄の先に筒状の合弁花が2個ずつ下向きにつく。花冠は5裂する。雄しべも5個である。2個の合弁花の基部は1つの小苞に包まれる。この小苞の中には2個の子房がある。それぞれが2個の合弁化の器官である。果実はこの2個の子房が合着し筒状の小苞も合着、肉質化したものである。このような2個の花なのに果実は1個しか形成されない花と果実の関係はツルアリドオシでも見られる。果実は液果で粉白をおび、濃い青紫色に熟する。



北海道では山岳地帯でもない平地の原野に広く植生しており、その果実に着目した農家により1977年頃から栽培が始められた。果実がジャムやワインに加工されハスカップとして販売されている。北海道大学の報告では「雌雄同花であるが、自家受精率は低く10%程度で、自然受粉で、約70%程度の結実率である」とある。しかし吾妻・安達太良連峰に植生するクロミノウグイスカグラでは果実を見たことがない。吾妻・安達太良では植生がコロニー状で限定されていることや山岳の厳しい周辺環境から受粉がうまくいかないのかもしれない。

第120回自然観察会案内：横向スキー場奥ブナ林観察会

日時：2012年2月12日（日）7:30～15:00

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7:30 参加定員 20名

内容 横向スキー場の奥に広がる冬のブナ林を散策します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具（スノーシュー、カンジキ、スキー）

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：2月11日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。

2012年「高山の原生林を守る会」自然観察会計画

回数	月日	曜日	候補地	テーマ	担当
第120回	2/12	（日）	横向スキー場奥ブナ林	雪上観察	佐藤守
第121回	4/8	（日）	鹿狼山自然林	スプリングエフェメラル観察	小幡
第122回	5/13	（日）	米沢・羽山～愛宕山	新緑観察	奥田
第123回	7/15	（日）	高山（鳥子平～高山～麦平～幕川）	夏の山岳植物観察	鈴木
第124回	9/30	（日）	大作山 里山観察と芋煮会	紅葉観察と芋煮会	佐藤和
第125回	11/25	（日）	愛宕山（金谷川）	里山の陽だまり林観察	山内
総会	11/25		福島市立子山自然の家		

2012年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日	回数	自然観察会のテーマ	観察地
1月15日（日）	253	冬の廻戸小屋	西和賀町廻戸
2月12日（日）	254	雪の自然観察	西和賀町志賀来
3月18日（日）	255	春を見つけよ	西和賀町川舟
4月22日（日）	256	カタクリの里歩き	西和賀町無地内・廻戸
5月13日（日）	257	夏椿と夏の渡り鳥	西和賀町白木峠
6月17日（日）	258	新緑のブナの森	西和賀町真昼ブナ指標林
7月15日（日）	259	和賀川歩き	西和賀町貝沢・星めぐりの森
8月19日（日）	260	ブナの森の滝巡り	西和賀町下前風景林
9月16日（日）	261	秋のブナの森	西和賀町未来の森
10月21日（日）	250	植樹と苗作り	西和賀町貝沢・星めぐりの森
11月4日（日）	251	冬の渡り鳥	西和賀町錦秋湖周辺
12月2日（日）	252	初冬の森	西和賀町内

- カタクリの会は西和賀町で、自然観察会開催を目的とした会です。
- 誰でも自由に参加できますが、各観察会の一ヶ月前から電話でのみ受付です。
- カタクリ通信を偶数月に発行いたしており、希望者には年間千円で送付致します。（郵便振込みをご利用ください…02350-5-38765 加人者名…カタクリの会）
- 連絡先：〒029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15 電話 &FAX0197(82)3601 代表：瀬川強

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

【編集後記】 2011年は日本にとり特別な年となりました。3月11日の地震・津波に引き続く原子力発電所爆発と言う戦後最大の「人災」。いつの時代かと錯覚を起こすような為政者の情報操作。一番パニックを起こしていたのは国民ではなく政府中枢部という皮肉。そして、地に着いた村おこしを積み重ねてきた村民の感情を札束でなでる無神経。現場も見ず、用意された答がないと何も判断できない自称指導者達。放射能汚染という環境汚染に対して縦割りしか対応できない行政組織。「除染」と言う公共事業に群がるゼネコンや「除染」業者。2012年はしっかりと目をこらして真実を斟酌していかなければなりません。そのためには現場を自分の目で確認することに尽きると考えております。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第79号 2011年12月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤守 Phone 024-593-0188（夜間7時～9時）

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・鈴木